

# 環境目標と実績

主要な環境活動について目標値を定め、環境負荷の継続的な低減に努めています。

項目	単位	実績 			2011年度 目標値		
		2009年度	2010年度	2011年度			
地球環境問題への取り組み	販売電力量あたりのCO <sub>2</sub> 排出量 [ ]はCO <sub>2</sub> 排出クレジット反映前	kg-CO <sub>2</sub> /kWh	0.348 [0.369]	0.348 [0.385]	0.503 <sup>*3</sup> [0.525]	2008~2012年度平均 の販売電力量あたりの CO <sub>2</sub> 排出量を1990年度 実績比20%程度低減 (0.348kg-CO <sub>2</sub> /kWh 程度にまで低減)	
	CO <sub>2</sub> 排出量 [ ]はCO <sub>2</sub> 排出クレジット反映前	万トン-CO <sub>2</sub>	2,910 [3,080]	3,050 [3,370]	4,300 [4,480]		
	販売電力量	億kWh	834	875	854		
	原子力利用率	%	84.8	81.1	31.4	— <sup>*4</sup>	
	再生可能エネルギー（風力・太陽光） 設備導入量（累計） <sup>*5</sup>	万kW	76	96	115	2020年度末までに 250程度	
	送電端火力総合熱効率（高位発熱量ベース） [ ]は低位発熱量ベース換算値 <sup>*6</sup>	%	39.6 [42.2]	39.5 [42.1]	39.5 [42.2]	39.9 <sup>*7</sup> 以上 [42.4以上]	
	送配電ロス率	%	5.4	5.0	4.7	5.1 <sup>*7</sup> 以下	
	オフィス電力使用量	百万kWh	82	81	69	80以下	
	電気自動車導入台数（累計） <sup>*8</sup>	台	94	131	165	2020年度末までに 1,000程度	
	一般車両燃料消費率 <sup>*9</sup>	km/ℓ	12.1	12.1	12.1	12.0以上	
	コピー用紙購入量	トン	559	539	554	600以下	
	上水使用量 <sup>*10</sup>	m <sup>3</sup> /人	32	32	28	36以下	
	SF <sub>6</sub> 回収率	機器点検時	%	99	99	99	98以上
		機器撤去時	%	99	99	99	99以上
機器点検時の規制対象フロン回収実施率		%	100	100	100	100	
循環型社会形成への取り組み	産業廃棄物リサイクル率	%	約100	約100	約100	99以上	
	石炭灰リサイクル率	%	100	100	100	100	
	石炭灰以外リサイクル率	%	98	98	98	98以上	
	産業廃棄物社外埋立処分量	トン	381	143	38	500以下	
	古紙リサイクル率	%	100	100	100	100	
	グリーン調達率 <sup>*11</sup>	%	約100	約100	約100	100	
地域環境の保全	火力発電電力量あたりのSO <sub>x</sub> 排出量	g/kWh	0.20	0.27	0.27	0.2程度 <sup>*7</sup>	
	火力発電電力量あたりのNO <sub>x</sub> 排出量	g/kWh	0.19	0.21	0.25	0.2程度 <sup>*7</sup>	
	原子力発電所周辺公衆の 線量評価値（1年あたり）	ミリシーベルト	0.001未滿	0.001未滿	0.001未滿	0.001未滿	

\*1：2011年度目標値に対する2011年度の達成状況を、「○：達成」、「△：概ね達成（達成率80%以上）」、「×：未達成（達成率80%未滿）」の3段階で評価。

\*2：下線部は目標を見直した箇所。

\*3：暫定値であり、正式には「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、国が実績値を公表。

\*4：原子力発電所の運転再開に関する見通しが不透明であること等により設定を見送り。

\*5：自社開発及び電力購入による設備導入量。

\*6：総合エネルギー統計の換算係数等を用いて換算。

用語集を  
ご覧ください

◎地球環境問題

◎CO<sub>2</sub>排出クレジット

◎原子力利用率

◎再生可能エネルギー

◎熱効率

◎発熱量

◎送配電ロス（率）

◎電気自動車

◎上水

◎SF<sub>6</sub>（六フッ化硫黄）

◎規制対象フロン

◎循環型社会

◎産業廃棄物

◎リサイクル率

◎石炭灰

◎グリーン調達

◎SO<sub>x</sub>（硫黄酸化物）

◎NO<sub>x</sub>（窒素酸化物）

◎線量評価値

◎シーベルト

◎地球温暖化対策の

推進に関する法律

：第三者機関による審査を受審したデータ

評価 <sup>*1</sup>		2012年度 目標値 <sup>*2</sup>	関連 ページ
-	電気の供給面と使用面からの取組みや京都メカニズムの活用などに最大限努めてきたものの、原子力発電所の運転再開延期等により、火力発電量が大幅に増加した結果、2011年度の販売電力量あたりのCO <sub>2</sub> 排出量は1990年度実績比16%の増加となりました。目標達成は非常に厳しい状況にあります。できる限り努力していきます。	2008～2012年度平均の販売電力量あたりのCO <sub>2</sub> 排出量を1990年度実績比20%程度低減(0.348kg-CO <sub>2</sub> /kWh程度にまで低減)	13
-	福島第一原子力発電所の事故の影響による運転再開延期等により31.4%となり、2010年度から大きく低下しました。	— <sup>*4</sup>	19 ～ 22
-	2011年度末までに累計で、風力41万kW、太陽光74万kW、合計115万kWが導入されています。今後とも、グループ会社を含めた積極的な開発や電力購入を通じて、再生可能エネルギーの導入拡大を図ります。	<b>2020年度末までに 300程度</b>	
△	原子力発電所の運転再開延期に対応するため、比較的熱効率の低い石油火力発電所の稼働率が増加したことにより、計画を若干下回る39.5%となりました。今後とも、新大分発電所など高効率発電所の高稼働維持等により、熱効率の維持・向上に努めます。	— <sup>*4</sup>	23 ・ 24
○	送配電設備の高効率化や設備の効率的な運用等に努めたことにより、目標を達成しました。	— <sup>*4</sup>	24
○	空調の適正管理や照明・エレベーターの間引きなど、徹底した節電・省エネに取り組んだことにより、目標を達成しました。	<b>69以下</b>	25 ・ 27
-	車両配車計画に基づき、2011年度は34台導入しました。今後も、計画的に社用車への電気自動車の導入拡大を図っていきます。	2020年度末までに 1,000程度	28
○	車両燃費管理やエコドライブの実施など、運用管理の徹底や低燃費車への計画的な切替えにより、目標を達成しました。	12.0以上	
○	電子文書の活用によるペーパーレス化の推進やミスコピーの防止、及び古紙の裏面利用の徹底により、目標を達成しました。	<b>570以下</b>	
○	節水活動の継続的な取組みにより、目標を達成しました。	<b>32以下</b>	
○	点検時・撤去時における真空型SF <sub>6</sub> ガス回収装置の使用徹底等を図り、目標を達成しました。	98以上	30
○		99以上	
○	法令基準レベル（撤去時における法定圧力）までの規制対象フロン回収の確実な実施を図り、目標を達成しました。	100	31
○	石炭灰の特性を活かしたセメント原料やコンクリート混和材等への石炭灰の100%有効利用に加え、共同回収による産業廃棄物の効率的な回収など、3Rの着実な実践に努めたことにより、リサイクル率、産業廃棄物社外埋立処分量ともに目標を達成しました。	99以上	
○		98以上	
○		500以下	32
○	古紙100%リサイクル活動の継続的な取組みにより、目標を達成しました。	100	
○	社内への周知徹底やお取引先との協働などにより、目標である100%をほぼ達成しました。	100	35
△	地域との環境保全協定は遵守しているものの、原子力発電所の運転再開延期に対応するため、火力発電電力量あたりのSO <sub>x</sub> ・NO <sub>x</sub> 排出量が比較的多い発電所の発電電力量が増加したことにより、計画値を上回る結果となりました。今後引き続き、熱効率の維持・向上に努めることにより、排出量の低減を図っていきます。	— <sup>*4</sup>	
○	適正な設備運用や放射性廃棄物の管理により、目標を達成しました。	0.001未満	18

※7：2011年度供給計画に基づく見通し。

※8：プラグインハイブリッド車を含む。

※9：電気自動車（EV）は除外。

※10：全社の上水使用量を当社在職者数（当該年度末）で除した値。

※11：調達範囲は、汎用品（事務用品、雑貨等）で社会的に認知された基準に適合した製品等。